

東京都内の新聞記者、羽室音矢さん(43)は、40歳を前に、手足が大きくなる症状が現れた。視力低下で眼科を受診したのをきっかけに先端巨大症と分かり、2004年、大学病院で手術を受けた。

摘出された4kgの

脳下垂体腫瘍を見た

家族は「白くてヨーグルトのようだつた」と振り返る。だが、頭の中に腫瘍のかけらが残ってしまった。

が多くなる。残った腫瘍からは、過剰な成長ホルモンが出続け、完治しない。

羽室さんは手術後、視力は回復したが、成長ホルモン値は高いままだった。

「脳下垂体手術は専門家が少なく、技術差が大きい」と知った羽室さんは、インターネットで病院の治療実績などの情報を集め、虎の門病院(東京)の間脳下垂

体外科部長、山田正三さんは、年に200~250件の脳外科手術(うち先端巨大症は約80件)を行なう。初回の手術で成長ホルモン値が正常化する治癒率は通常5~6割だが、山田さんの場合は約8割だ。

ただ、他の病院で手術を受けた患者の再手術では、

体外科部長、山田正三さんは、年に200~250件の脳外科手術(うち先端巨大症は約80件)を行なう。初回の手術で成長ホルモン値が正常化する治癒率は通常5~6割だが、山田さんの場合は約8割だ。

ただ、他の病院で手術を受けた患者の再手術では、

治癒率は5割以下がる。残った腫瘍が石のように硬くななど、摘出が困難になるためだ。

羽室さんは昨年、山田さん的手術を受けたが、硬くなった腫瘍の一部は取りきれなかった。手術後も成長ホルモン値が高く、数値を下げる薬の服用を続ける。

薬代は年間60万円以上かかる場合もあり、羽室さんは「薬代を払い切れる自信がない」と話す。

脳下垂体手術 技術に差

そこで今年5

月、横浜市の新緑会脳神経

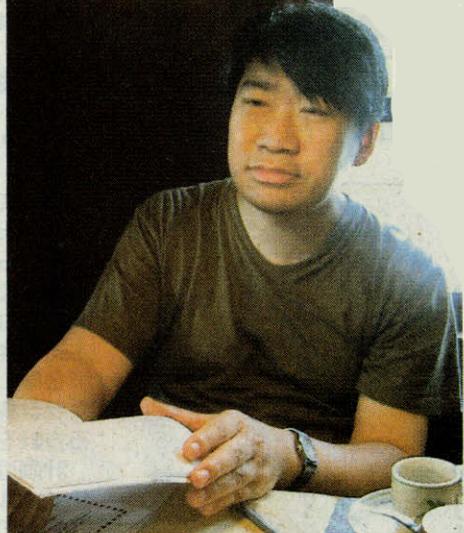
外科でサイバーナイフ治療を受けた。コンピューター

制御の照射装置により、放射線を病巣に集中させる治療で、視神経に近い腫瘍も攻撃できる。効果が表れるのは半年から数年後だが、

脳下垂体腫瘍の治療例は少なく、データは不十分だ。羽室さんは「先端巨大症は、最初の手術が勝負。慎重に外科医を選んでほしい」と訴える。

ところが、腫瘍が数倍と大きくなると、周囲の血管を巻き込んで広がる。手術中に動脈を傷つけたら、命にかかる。そのため、経験不足の医師は動脈付近の腫瘍には触らず、取り残し

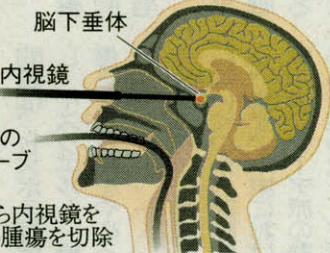
て、脳下垂体手術は、鼻から切除器具を入れて、脳の下部の下垂体まで進め、顕微鏡や内視鏡で状態を確認しながら腫瘍を切除する。



先端巨大症の治療体験を振り返る羽室音矢さん

先端巨大症

・2・



脳下垂体腫瘍の手術件数が多い主な医療機関

- 大原医療センター脳神経外科(福島市)
☎ 024・554・2001
- 日本医大脳神経外科(東京都文京区)
☎ 03・3822・2131
- 虎の門病院間脳下垂体外科(東京都港区)
☎ 03・3588・1111
- 京都大脳神経外科(京都市)
☎ 075・751・3111
- 広島大脳神経外科(広島市)
☎ 082・257・5555

門病院(東京)の間脳下垂

50件の脳外科手術(うち

先端巨大症は約80件)を行

う。初回の手術で成長ホル

モン値が正常化する治癒率

は通常5~6割だが、山田

山田さんは、年に200~250

件の脳外科手術(うち

先端巨大症は約80件)を行

う。初回の手術で成長ホル

モン値が正常化する治癒率

は通常5~6割だが、山田

山田さんは、年に200~250

件の脳外科手術(うち

先端巨大症は約80件)を行